

# しゅもく 撞木つくりで、オンリーワン

上田技研産業株式会社



自動撞木



自動撞木の試作、実験

お寺の鐘の音を聞くと遠い昔の日々を懐かしく思い、  
時には心が洗われるようにジーンとなる。  
その撞木つくりで日本で唯、一社が奈良にある。

## 時が来れば自動で鐘が鳴る

お寺の梵鐘用撞木しゅもくは、当社売上の70%を占める主力製品である。

また、当社は独自の発想で自動撞木を製品化した。  
とにかく発想がユニークで、実行力がある。

## 撞木の材料取りは、36年間の経験がなす技

撞木（自動撞木）のヘッドは、北欧から取寄せた高級木材で日本の桧材に非常に近い。

かなり太い高級木材の芯去り材（芯を外した部分）を用いる。芯の部分を用いると撞木がひび割れて、音色も割れる。また、あまり芯から外れると撞木が反ってしまう。この材料取りは36年間の経験がなす技。このヘッドが妙音、余韻をかもし出す。

また、撞木には瞬間的に大きな衝撃力が作用する。自動撞木に内在する機構をこの衝撃力から守る工夫が潜んでいる。多くの寺院では、10～15年間はメンテナンスフリーで使用されているようだ。



天女像を銅エッチング仕上げした撞木もある

## 自動撞木開発のキッカケは

社長が生まれ育った奈良県生駒山の東、富雄にある根聖院の鐘は毎日午前 11 時 30 分に鳴る。村の人々はその鐘の音が待ち遠しく、それを聞いて野良から帰り家でお昼をとるのが楽しみでもあった。

ところが全国的にこの鐘の音が日増しに聞かれなくなった。鐘楼もある。鐘もある。ただ撞き手がない。この現実を見たときに自動撞木の構想が生まれた。

花時計



## 奈良市中の鐘を見てまわった

撞木に関しては全く参考とする資料が無かったので、社長自ら調査や実験をした。奈良市内にある 240 カ寺の中で鐘があるのは 60 カ寺 (25%)、朝晩撞いているのは 17 カ寺 (7%)。75% の寺に梵鐘が無いのは戦時中の金属供出の影響。また、鐘はあっても住職一家で年間定刻に鐘を撞くのは至難と判った。

撞木の材質は、しゅろの木、桧、杉、松、ラワン材だったが、これまでほとんど関心もたれなかったこともわかった。

また各寺を回って鐘と撞木の重さ、鐘の音色を測定した。その結果鐘の音は 5 万 HZ ~ 400HZ の周波数帯が複雑に入り混じっていること、撞木の重量は鐘の重量の 2.8% の時が一番良い音が出るのがわかった。

### 丁寧さが心得

丁寧に作り、丁寧に売っていく。これが我が社の理念と社長は熱くいう。会社は個人のものではなく、社会の一部を当社が担っており、社長はまたその一部に過ぎないという。

会社の存在はあくまでも社会の公器で無ければならないと教えてもらった。

スピーカーベル



自動撞木の機械構造部は、狭い円筒形の撞木の中に収まっている。この技術が花時計やスピーカーベルに生かされた。従来地中にあった時計の駆動部をすっかり地上の針の中に収めた。メンテが容易になり、秒針からは花壇への自動灌水ができる。

## 上田技研産業株式会社



代表取締役社長 上田 全宏

〒 631-0062

奈良県奈良市帝塚山 1 - 1

TEL ■ 0742 - 40 - 2002 (代)

FAX ■ 0742 - 48 - 2052

URL ■ <http://www.namsystem.co.jp>